

東海大学博物館だより

海のはくぶつかん



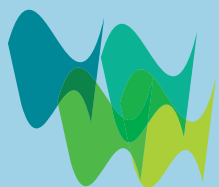
保育中のラブカ胎仔

Vol.47 No.4

2017.10 秋号

C O N T E N T S

特別展	・“釣”水族館 開催報告	———	山田一幸	2
イベント	・わくわく釣りたいけん教室	———	手塚覚夫	4
展示	・タッチプール出展～イシグロ中吉田店～	———	手塚覚夫	5
研究	・ラブカ～胎仔保育と展示～	———	山田一幸	6
話題	・ホームページのリニューアル	———	野口文隆	7
INFORMATION	———			8



特別展



開催報告

山田 一幸
Kazuyuki YAMADA

前号 (Vol.47、No.3) で予告した特別展『釣水族館』が、7月8日にオープンしました。この特別展では「釣り」をテーマに、その歴史や道具、あるいは記録などについて広く展示していますが、ここでは実際の展示物や会場の様子をご紹介します。

『釣水族館』入口

展示場の入口では4m近いクロカジキの模型と釣り人がお出迎えしています。この模型は発泡スチロール専門業者に大まかな成形をお願いし、当館の造形を得意とする職員がクロカジキをモデルに削り出したものです。また、カジキの口にかかる釣り鉤、さらに釣り糸の途中に付けられたヨリモドシも実は職員のお手製！まさに手作りのお出迎えとなっていますが、その迫力は圧巻です。まずは入口で写真を一枚パチリといかがですか!?



「釣りの今むかし」

釣りの歴史的な一面として、釣り鉤や古書などについてご紹介しています。鉤は、遺跡から発掘された鹿角で作られたものや大正時代の鋼製の鉤などを展示しました。一方、古書については、江戸時代に書かれた日本最古の釣り指南書とされる「何羨録」や明治時代に出版された釣り鉤に関する専門書「日本釣鉤図」を展示（いずれもレプリカ）、さらに明治時代の和竿や浮世絵なども



ご紹介しています。



「現代の釣り道具」

このコーナーには、多くの最新釣り具が展示してあります。竿は用途や素材によって区分し、その様々な長さや形状などを比較。リールに関しては、種類の紹介と宇宙工学をもとにした最新防水技術のハンズオン型展示なども設置しました。釣り糸は素材ごとに分けて展示し、実際に糸に触れることでその違いを感じていただき、鉤は種類の多さを知ってもらうため、極小タナゴ鉤から大きなカジキ鉤まで80種以上の実物を展示しました。エサについては、配合餌や活餌、そしてルアーやフライなど擬似餌の実物展示と生分解ルアーなどの環境に配慮した最新技術も紹介しています。



「一釣一魚」

人気魚種であるマダイ、クロダイ、シマアジ、タチウオ、ヒラメ、ブラックバスなどに関して、それぞれの生態や形態的な特徴とともに、それらに対応した実際の釣り仕掛けなどを展示しています。さらに、アオリイカ・マダコに関しては同様の解説とイカ・タコ釣りで用いられる日本古来の擬似餌である「餌木」の紹介をしています。



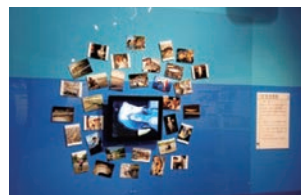
「静岡の釣り」

静岡ならではのご当地釣法を知ってもらう機会になればと考えて作ったコーナーです。静岡県内の特色ある釣法として、「遠州ボラの風船（または提灯）釣り」、「清水クロダイのかかり釣り」、「沼津マダイのまきこぼし釣り」、「沼津タチウオのサーベルテンヤ」をパネルで紹介しています。



「釣り自慢」

古くから釣果の記録として知られる墨魚拓、芸術的なカラー魚拓、あるいは現代的なデジタル魚拓や特殊な3D魚拓などの記録方法をご紹介します。また、ジャパングームフィッシュ協会の釣魚記録画像や、twitterで募集した釣りに関する写真を掲載するなど様々な釣り自慢も展示しています。



その他に「釣り情報」のコーナーでは、現在、釣れている場所や魚種の情報が集結しています。さらに、スタッ

フが実際に博物館周辺で釣った魚たちも水槽で観察することができます。また、「ルアーアクション」コーナーでは、ルアー（擬似餌）を水中で引いて本物の小魚のように泳がすことができる水槽も設置し、幼児向けには小さな「オモチャ釣り」コーナーもあります。



この『“釣”水族館』では、様々なイベントの開催も予定しています。すでに7月には第一回の「釣り体験教室」を開催しました。9月にはルアーに色付けする「ルアーペイント」、ワームなどと呼ばれる柔らかなプラスチックを材料にしたルアーを作る「ソフトルアー作製体験」、10月にはプロの釣り師・村越正海さんや人気者のさかなクンによる「トークイベント」、そして2回目の「釣り教室」も開催します。

とにかく「釣り」三昧の特別展とイベントです。これをお読みのみなさんは（水族館に興味がある）⇔（魚が好き）⇔（釣りに興味がある）はすです!? ぜひ、一度「“釣”水族館」に足を運んでいただき、イベントにもご参加ください!!（詳細はホームページをご覧ください）

*これら特別展とイベントは各釣り関係の企業様、ならびに個人の方々にご協力をいただいで開催しております。ここに感謝し、厚くお礼申し上げます。

わくわく釣りたいけん教室

手塚 覚夫

Sadao TEZUKA

7月22日、夏の強い日差しの中、特別展「^{ちよう}釣水族館」のイベントとして、「わくわく釣りたいけん教室」を当館近くの海岸で実施しました。教室は午前と午後の2回にわたり、釣りを通して自然の海に親しみ、そこにすむ生き物について学んでいただきました（写真1）。



写真1 釣りの概要説明

参加者の皆さんは釣りの初心者が多く、3m近い竿を振るのは初めてです。スタッフが注意点を説明したり実演してみせたりした後、参加者自身による釣りが始まります。説明を受けるのと実際に自分で行うのはやはり違うようで、これがまさに体験ということでしょう（写真2）。



写真2 釣り方を実演するスタッフ

この釣り教室で行った釣り方は「ちょい投げ釣り」です。^{おもり}錘にL型の針金が付いており、上は道糸につながっています。下には^{はり}鉤とエサの付いた仕掛けがあります。当日はそれほど遠くに投げなくても魚の当たりが分かる状況でした。

スタッフは、参加者の皆さんが釣りを楽しんでくださること、海に親しんでくださることを念頭に、何とか魚

を釣り上げ、「また海に行きたい!」、「釣りをしたい!!」と感じていただきたー一心でした。その心配をよそに午前の部、午後の部共に釣果に恵まれ、すべての参加者が魚を釣り上げることに成功しました。キュウセン、シロギス、マダコ、トラギス、マダイ、メゴチなど多くの種類を見ることができ、中には立派なカワハギを釣り上げた参加者もありました。やはり、魚を釣り上げた時の表情は何とも言えずうれしそうです。（写真3）



写真3 魚を釣り上げた皆さん

教室の最後には、きれいな海の大切さを知り、それを守るために自分たちにできる取組みとしてビーチクリーニングも行いました。海とそこに暮らす生き物に親しみ、学び、体験する、非常に良い機会となった「わくわく釣りたいけん教室」。参加者の中からは「また釣りに行きたい」という声が多く聞かれ、充実した夏の日となったようです。この釣り教室は10月21日にも開催しますので、皆さん、奮ってご参加ください!

最後に、今回多大なご協力をいただいた日本釣振興会静岡支部、株式会社イシグロ、グローブライド株式会社（ダイワ）、マルキュー株式会社、そして本学海洋学部の釣魚部に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

タッチプール出展～イシグロ中吉田店～

手塚 覚夫

Sadao TEZUKA

当館で行われた「わくわく釣りたいけん教室」(本誌p.4)に多大なご協力をいただいた釣具店イシグロの静岡中吉田店において、海の生き物に触ることができるタッチプールなどを出展しました(写真1)。釣り教室では、当館を訪れた海の生き物が好きな方々に釣りの魅力をお伝えしましたが、今度は釣具店を訪れた方々に海の生き物の魅力をもっと知っていただこうと考えました。これら一連の企画は、当館と釣具店の双方において、新しいお客様へのアプローチとしても大きな意義がありました。



写真1 タッチプール設置

このイベントでは、当館の展示以外にも、釣具店では釣り初心者の方に対するアドバイスや金魚釣りコーナー、チリメンジャコの中から珍しい魚の幼魚を探すコーナーなど、小さいお子さんも楽しめる様々な内容が準備されていました。夏休み期間中の週末ということもあって、開店前から列ができる盛況ぶりでした。



写真2 ウニ・ヒトデ・ナマコのタッチプール

私たちがタッチプールで展示したのは、博物館周辺の海に生息するウニ・ヒトデ・ナマコ(写真2)、また深海で動物の死骸などを食べる「おそうじ屋」のオオグソクムシにも触っていただきました(写真3)。参加して

下さったお客様は普段なかなか触ることのできないオオグソクムシに興奮気味でした。また、ウニ・ヒトデ・ナマコも名前や姿を知っている方は多いと思いますが、実際に自分の手で触れ、間近で観察することはとても新鮮な様子でした。タッチプールの他に、海釣りではおなじみのホウボウ、ヒレの棘に毒を持つアイゴ、見分けが難しいネンブツダイとクロホシイシモチも水槽で展示しました(写真4)。釣り人でもネンブツダイとクロホシイシモチの違いを知らないことがあり、後種では後頭部に黒点がある(クロホシの由来)ことなどを説明しました。



写真3 オオグソクムシのタッチプール

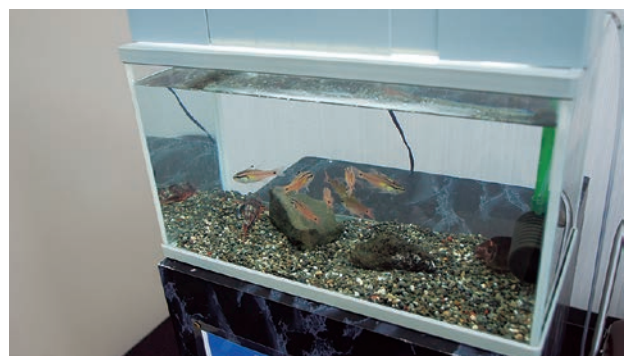


写真4 身近な海の魚

釣具店でこのような展示を行うことは私たちにとって初めてのことでしたが、釣りが好きな方は魚や海に興味を持っているため、海をテーマとした博物館である当館にも強い関心を持って下さる方が多かったのが印象的でした。皆さん、当館で開催中の2017年特別展「釣(あやう)水族館」をぜひご覧いただき、フィールドに出て釣りをお楽しみください。

さあ、海に、川に、湖に釣りに出かけましょう！！

ラブカ～胎仔保育と展示～

山田 一幸
Kazuyuki YAMADA

ラブカ $Chlamydoselachus\ anguineus$ は、ラブカ目ラブカ科に属し、普段は500m以深に生息するとされる深海ザメです(写真1)。最近の深海ブームにおける、代表選手といっても過言ではないほどに人気のある深海生物となりました。しかし、一般の方々が、その生きた姿を見ることはほとんどありません。



写真1. ラブカ成体

当館では、1980年代に駿河湾奥部においてラブカの重点的な調査・研究を行いました。その結果、1回に妊娠する胎仔(子ども)の数が他種より少ないこと、妊娠期間は3～4年であることなどがわかりました。さらに、成体について飼育試験を行いましたが、長期飼育には至りませんでした。多くは、長くても水槽収容後1週間ほどで死んでしまうことがほとんどでした。その後も、ラブカの飼育には各地の水族館が度々挑戦してきましたが、未だに長期飼育には成功していません。そこで、昨年4月にラブカの長期飼育と展示を目指して、当館と「アクアマリンふくしま」(福島県いわき市)、さらに東海大学海洋学部のサメ類の専門家を加えた共同チームによる「ラブカ研究プロジェクト」を発足しました。

プロジェクト発足後、当館が中心となりラブカの収集に努めてきました。その結果、数尾の成体を入手しましたが、やはり長期飼育はできませんでした。しかしながら、大きな成果も得られました。それが、胎仔の長期保育です(写真2)。実は、当館における過去の調査・研究でも、卵殻内胎仔(卵の殻に包まれた状態の子ども)については134日の保育に成功していましたが、昨年からの活動では、同様の胎仔3個体を154～361日保育することに成功し、大きく記録を更新しました。ま

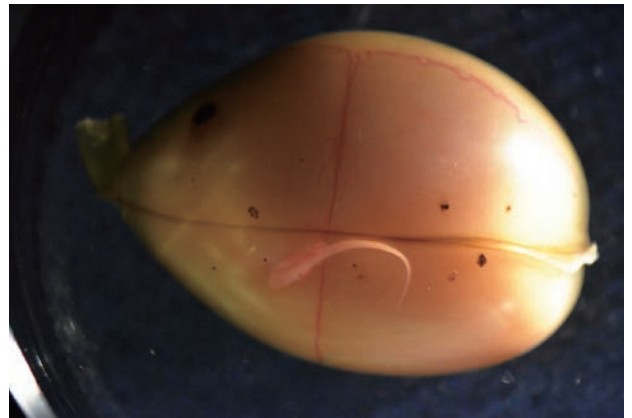


写真2. ラブカの卵殻内胎仔



写真3. 展示公開した大型のラブカ胎仔

た、今春には、静岡県由比周辺で行われた桜えび漁において、漁業者のご協力のもと成体を入手し、その成体から卵殻の外れた大型の胎仔を得ることができました(写真3)。もちろん、初の大型胎仔保育に挑戦し、2ヶ月以上の保育例を得ることが出来ました。さらに、そのうち1個体については、6月8日から一般公開展示を行いました。大きな卵黄をつけた胎仔がゆっくりと体を動かす姿に、大きな反響がありました。残念ながら、個体が8月2日に死亡したため展示は終了しましたが、これらの事例はラブカ長期飼育への大きな前進だと考えています。

ラブカの長期飼育を目指し、今後も継続的に様々な活動を進めて行きたいと思います。いつの日か、みなさんの目の前に、水槽の中を優雅に泳ぐラブカがいることを夢見て…。

ホームページのリニューアル

野口 文隆

Fumitaka NOGUCHI

この夏、東海大学海洋学部博物館のホームページ（HP）を大幅にリニューアルしました。1996年に開設してから、今回で2度目のリニューアルになります。

リニューアルを担当した私自身は、HPの仕組みやパソコンについて全く精通していません。事前に色々なHPを閲覧したり、他の水族館の方や自身で作ったことのある方などに教えてもらったりしましたが、未だに分からないことだらけです。そのような状態で手探りしながら、「何をコンセプトにリニューアルするのか?」「これまでの問題点や課題は何なのか?」、1年近く他のメンバーと議論して、その根幹を築いていきました。そして、新しいHPは30～40代のお子さんを持つ親御さんをターゲットに「使いやすい」「かわいらしい」「わかりやすい」をコンセプトとして作ることにしました。

東海大学海洋学部博物館は組織の名称で、海洋科学博物館と自然博物館の二館からなります。そこで、新しいHPは大きく3つに分け、海洋学部博物館のページ（写真1）では海洋科学・自然史各館へのアクセスや入館料などの情報を、各館それぞれのページ（写真2・3）では展示内容やイベントなどの詳細をチェックできるようにしました。

今回のリニューアルに当たり、大きく変更した点が3つあります。一つ目は情報量を大幅に減らしたことです。これまでのHPでは総ページ数が2000ページ以上になっていました。HPの内容に関する質問があっても、それを探すだけで大変な作業です。そのため、今回は最低限必要な情報だけにして、ページ数を従来の1/10以下にしました。今までに蓄積した情報を捨てることは、かなりの勇気が必要です。情報を減らすことで、利用者の満足度や検索順位の低下などが考えられます。しかし、最初に決めたコンセプトに立ち返り、シンプルで分かりやすいHPにすべく、思い切って実施することにしました。二つ目の変更は、スマートフォンなどの普及に伴い、様々な機種での閲覧を可能にするマルチデバイス対応をめざしたことです。マルチデバイス対応は全てのページで実施したのではなく、必要と思われる箇所のみで行いました。スマートフォンを利用される方にとっては、これまでより随分と見やすくなったと思います。しかし、機器の進歩は10年前では考えられないほどに早く、今

後の動向に注意しておかなくてはなりません。最後に、三つ目の変更は、お知らせなどの更新を自分たちで行えるようにして、作業の効率性と即応性を向上させたことです。これまではわずかな修正も委託業者に依頼していたため、HPの更新に少なからず時間がかかっていました。そこで、更新を頻繁に行う箇所は、自分たちで行えるCMSで作成するようにしました。その結果、随分と作業が早くなり、これまでのやきもきとした気持ちが楽になりました。

HPは当館のことを知っていただく大切なツールです。時代とともにデザインや構造・技術が変化するため、それに対応していかななくてはなりません。しかし、情報を多岐にわたって発信することだけに気をとられず、博物館として何を伝えたいのか見定めていくことが大切であると、今回のリニューアル作業を行いながら強く感じました。今後も更なる改善を行いながら、正しい情報をホームページから発信していきたいと思います。



写真1 東海大学海洋学部博物館のトップページ



写真2 海洋科学博物館のトップページ



写真3 自然史博物館のトップページ

海洋科学博物館・自然史博物館



海洋科学博物館では...

好評開催中!



海の学びミュージアムサポート
Supported by THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT

一釣りの歴史・釣り具・・・さまざまな面から釣りを解りやすく、深く掘り下げ展示していますー

●開催期間：10月29日(日)まで ●展示会場：2階 特別展示場

★特別展 関連イベントのお知らせ★ 特別展の開催に合わせて楽しいイベントを実施します!

●特別講演会 村越正海が語る!! 「釣りの魅力・魚の魅力」

その道で知らない人はいない! プロ釣り師の村越正海氏が、母校東海大学海洋学部の博物館で、「釣り」そして「魚」の魅力を、さまざまなエピソードを交えながら語ってくださいます! ご期待ください!!

・日時：2017年10月1日(日) 14:00～15:00
・参加費：入館料のみ ・対象：当日入館者(先着順)



●トークショー さかなクンの「お魚あれこれ講座!」

みなさんご存知のあの人気者! さかなクンが釣りの対象魚を中心に、すっごくあんなことやこんなことを教えちゃいます! お楽しみに!!

・日時：2017年10月18日(水) 開場 18:00 開演 18:30

・参加費：大人(高校生以上)1,800円、小人(4歳～中学生)900円 ※入館料を含む

・申し込み方法：ホームページより申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお申し込み

ください。FAXの場合は、送信後9:00～17:00の間に確認のお電話(054-334-2385)をお願いします。

※応募者多数の場合は、抽選となります。当選者の方には、「参加証」を郵送いたしますので、当日、必ずご持参ください。



●わくわく釣りたいけん教室

7月に開催し好評だった釣りたいけん教室の第2弾です! みなさん奮ってご参加ください!

・日時：2017年10月21日(土)

【午前の部】10:00～12:00 【午後の部】13:00～15:00

・参加費：大人(高校生以上)1,800円、小人(4歳～中学生)900円 ※入館料を含む

・参加申し込み：ホームページより申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお申し込みください。FAXの場合は、送信後9:00～17:00の間に確認のお電話(054-334-2385)をお願いします。

協力：株式会社イシグロ、日本釣振興会静岡県支部、グローブライト株式会社、マルキュー株式会社



※各イベントの詳しい情報および申込書は、ホームページでご確認ください!



自然史博物館では...

好評!

わかりやすい解説と驚きの体験!

自然観察フィールドワーク

★第1回 10月15日(日) 9:00～17:00

「安倍川源流大谷崩」三保海岸の石のふるさとを訪ねて

世界文化遺産構成資産として登録された三保の海岸の成り立ちは? 安倍川の源流にその答えを探しに行きます。

日本三大崩れの大谷崩での化石調査もかねた楽しい観察会です。運が良ければ、化石を発見! 紅葉も見られるかも!!

●案内人：柴 正博(東海大学自然史博物館 学芸員)

●参加費：大人(高校生以上)2,500円

小人(4歳～中学生)1,750円 ※保険料・バス代などを含む

●集合場所：東海大学自然史博物館

●解散場所：清水駅および東海大学自然史博物館



★第2回 10月22日(日) 10:00～16:00

「興津川の生きもの」清水の水の源流を訪ねて

川の生き物を調べることで、その水の清らかさがわかります。興津川を観察し、私たちの使っている水をとりまく環境を調べてみましょう!

●案内人：秋山 信彦(東海大学海洋学部博物館 館長)

●参加費：大人(高校生以上)1,500円 小人(4歳～中学生)750円

※保険料・バス代などを含む

●集合場所：東海大学自然史博物館

●解散場所：清水駅および東海大学自然史博物館



◆申込方法 はがき又はお電話で、①参加日・②住所・③氏名・④年齢・⑤電話番号をお知らせ下さい。後日、受講票(スケジュール・持ち物等)をお送りします。

◆しめきり 第1回10月5日、第2回10月12日。(各回必着)

◆募集人数 各回 40名(定員を超えた場合は抽選)

◆その他 小学4年生以下は保護者同伴でご参加ください。天候により、スケジュールを変更することがあります。

◆送り先 お問い合わせ先

東海大学海洋学部博物館 〒424-8620 静岡市清水区三保2389 電話054-334-2385(受付時間9:00～17:00)

☆お客様の個人情報は、この行事における運営のためのみに利用させていただきます。

お問い合わせ：TEL.054-334-2385

ホームページ <https://www.muse-tokai.jp/>

海洋科学博物館公式スタッフブログ絶賛! 公開中!

